暮らしを育てる

安心できる、伸び伸びできる。

小さな町は暮らしやすい町です。
すぐ近くに学校や保育所、病院、お店、
暮らしに必要なものがあります。
町のみんなに目が行き届く手厚い行政サービスも
コンパクトな町だから実現しています。
良好な交通アクセスを活かして、
他の地域への通勤、通学も便利です。
安心して、伸び伸びと暮らしを育てられます。

子育て支援センター

子育てを支える行政サービスが充実。

常に
親御さんの
心に寄り添う場所で
ありたいです

スタッフ（保育士）
齊藤 辰美さん

氷川町子育て支援センターは、『いっしょに遊び、いっしょに子育てを楽しむ』をモットーに、２名の保育士が子どもたちだけでなく、親御さんの心身もしっかりサポートしています。「登録制ではなく予約も不要なので、お散歩感覚で足を運ばれる方も多いんですよ。来たいときに気軽に利用していただければうれしいですね」と保育士の齊藤辰美さんは言います。センターでは、親御さん同士の交流を積極的にサポートするのが特徴。センターを訪れる皆さんは、離乳食の進みや、心身の発達の度合いをお互いに相談されるなど、支え合って子育てに取り組んでいます。「子育ては決して１人の問題ではありません。地域で、センターで、一緒に考えていきたいと思っています。」と齊藤さん。氷川町子育て支援センターは、常に親御さんの心に寄り添う子育て支援センターとして、地域といっしょに子育てを考え、いろいろな『氷川町で暮らす人同士の交流のきっかけ』を作れる場になることを目指しています。

梨マラソン
開催日：毎年9月　秋分の日

梨の里・吉野地区をめぐる“おいしい”マラソン大会

町の特産物『吉野梨』を広くみなさんに知ってもらうことを目的に毎年9月の秋分の日に『氷川町梨マラソン大会』を開催しています。竜北公園をスタート・ゴールに3キロコース・5キロコース・10キロコースの３つのコースで開催。梨マラソンの名前のとおり、どのコースも梨畑が連なる吉野地区を走ります。氷川町は熊本県の梨栽培発祥の地、地元吉野地区の人々は地元の宝物、誇りの梨を大勢の人々に味わってもらおうと、地区総出で大会の運営をお手伝い。沿道の休憩所では採れたばかりの瑞々しい梨がふるまわれます。この大会はファミリーでの参加が多いのも特長。3キロコース、5キロコースと、気軽に参加できるコースが設定されていることと、おみやげとして大きな吉野梨がプレゼントされることも人気の理由。周辺地域だけでなく熊本県外からも毎年リピート参加している人もいるほど。家族みんなでおいしい梨を頬張りながら楽しくさわやかな汗を流す姿が毎年見られます。

三神宮秋季例大祭
開催日：毎年10月13日

五穀豊穣を感謝する祭り

三神宮は元は三宮社と呼ばれていましたが、明治維新後、神仏分離令により宮原三神宮と改められました。平治元年（1159）9月二条天皇の勅命によって平盛俊が社殿を造営。天正16年（1588）に社殿のほとんどが焼失しましたが加藤清正公により再建された由緒正しい宮です。八代北部全域の守護神として崇敬され今日に及んでいます。毎年10月13日に行われる三神宮秋季例大祭は、五穀豊穣の感謝祭として、獅子、神馬、神輿、甲冑武者、奴、子どもみこし、亀蛇などの神幸行列が行われます。

氷川まつり
3月下旬

町民の親睦と調和をはかり、来場者をもてなす氷川町の一大イベントです。特産品を利用したイベントや、小中学生の出演、郷土芸能の披露もあり、歌謡ショーやキャラクターショーなどで盛り上がります。

いちご杯 九州ヘラブナ釣り大会
４月第３日曜日

不知火干拓地潮遊池（下池）で開催され、氷川町の特産である『和鹿島のいちご』のPRと環境保全推進の一環として開催しています。県内外からはもちろん、九州内外からの参加者も多い大会となっています。

納涼祭
7月29日

三神宮の夏越祭にあたる7月29日に毎年開催される夏祭り。サンバ調の『氷川音頭』に合わせ、中心商店街から三神宮までを町民総参加で踊り歩きます。三神宮の境内では神楽の奉納なども行われます。

地蔵まつり（花火大会）
８月23日・24日

地区に建てられた『ほこら』には地蔵が奉られ、ろうそくの明かりの中で子どもたちが念仏を唱えながら喜捨をお願いします。商店街には造り物が展示され、スタンプラリーや、各種イベントが開催されます。最終日には花火大会も行われます。

道の駅「竜北」ウォーキング
10月下旬

氷川町の特産品を味わい、道の駅「竜北」、竜北公園、大野窟古墳、野津古墳群、立神峡里地公園などの観光資源、豊かな自然環境と素晴らしい景観を楽しみながら歩くウォーキングイベントです。

氷川町は子育て世代にぴったりの町です。

子どもができたら、子育てしやすい町に住みたいと思いますよね。熊本県は、田舎暮らしに憧れる人にとって人気の場所ですが、そのなかでも、氷川町は子供を育てるのにぴったりの町です。子育てをしている家庭が、『子育ては楽しい』と思ってもらえるように、独自の取り組みで、町全体で子育て世代を手厚くサポート。ここでは様々な支援制度を紹介します。

児童医療費助成事業

0歳から中学3年生までの子どもの医療費を全額補助する制度です。入院など特別な場合を除いて、児童医療費受給者証を医療機関の窓口に提示すると、窓口負担がありません。

すこやか赤ちゃん出産祝い金

町内に居住する保護者の方に、赤ちゃんの誕生を祝い、祝い金を支給します。

産前産後ホームヘルプサービス事業

産前2ヵ月、産後4ヵ月（5ヵ月目の誕生日前日まで）の妊産婦で体調不良や育児支援者がいない等、育児の困難さが見られる場合にヘルパー派遣を行っています。

1歳児健診

成長発達の節目である1歳のお誕生月に実施しています。医師による診察のほか、保健師や歯科衛生士、管理栄養士、心理士などのスタッフが保護者の不安に寄り添い、相談をお受けします。

母子保健推進委員活動

13人の母子保健推進員が町内各地域を担当しています。各種健診のお手伝いや、子育て支援センターからのメール便の配布などを行い、地域で子育て支援の体制を作っています。

放課後児童健全育成事業

保護者が仕事などで放課後家にいないお子さんを、町内全ての小学校でお預かりします。

一時保育事業

町内の私立保育園5園では、一時的に保育が出来ないお子さんを預かる一時保育を実施しています。

多子世帯子育て支援事業（保育園）

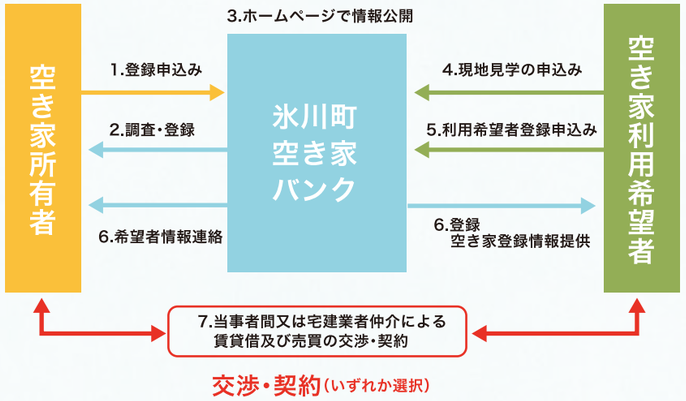
18歳未満の子どもが3人以上いる場合は、第3子以降は保育料が無料です。

暮らしを支える取り組みも！

空き家バンク事業

※ 空き家バンクとは

町内の賃貸・売却できる空き家を登録してもらい、その物件の情報を氷川町への移住を希望される方や住居をお探しの方へ、町のホームページ等を利用して提供する仕組みです。移住定住希望者の受け皿として全国的に多くの自治体で導入されており、また空き家の活用によって防犯・防災の面からの効果も期待されています。空き家の改修費や残されたままの家財の撤去にかかる費用への補助もあります。



商工業創業支援・事業所等整備促進事業

新たに事業所を開設したり、現在の事業所をリフォームするために必要な工事費や、事業に必要な機械などの購入費の補助を行います。

住宅リフォーム等促進事業

町内に居住する方が所有する住宅を町の登録業者によってリフォームした場合、工事費の補助を行ないます。

消防団・自主防災組織

自然災害や火災などが発生した場合、その被害を最小限に抑えるために消防団は日頃から厳しい訓練を欠かさず行っています。また、各地区で結成された自主防災組織は、共助の要として重要な役割を担っています。

町営住宅

町が管理している住宅には『公営住宅』と『特定公共賃貸住宅』があります。中でも若葉団地・有佐駅前団地については、バリアフリー仕様、オール電化住宅となっているのが特徴です。

人を育てる

教育にとても熱心な町。

氷川町には人を育てるDNAが根付いています。
地域が一丸となって子どもたちを育てています。
先進的な教育に、どこよりも早く取り組んでいます。
『ふるさとの大地に輝く氷川っ子』が、
やがてふるさとをずっと愛してくれる大人に育つよう
熱心な取り組みが展開されています。

コミュニティ・スクール

教育は、学校と保護者と地域の三位一体

氷川町では
地域が一丸となって
子どもたちを
育てています。

子どもたちの健やかな成長と質の高い学校教育の実現を図るため、地域の力を学校運営に活かす取り組みがコミュニティ・スクールです。氷川町では2010年から町内すべての小中学校が指定校として活動をはじめました。各学校協議会の代表、教務主任、地域教育コーディネーター、行政などで氷川町コミュニティ・スクール連携協議会を構成し、それぞれが連携・協働しながら『ふるさとの大地に輝く氷川っ子』の育成に励んでいます。読み聞かせ、花植え、味噌作りなど、地域の大人たちによるボランティア支援は好評です。「子どもたちは親だけでなく氷川町民みんなの宝、だからみんなで支えています」と、連携協議会の上野さんは言います。地域とともにある学校づくりの成果として、「地域の大人たちからいろいろと学んだ子どもたちが、いずれはふるさとを愛する大人に育ってくれたらうれしいですね」という思いを、協議会の四宮会長は抱いています。

氷川町
コミュニティ・スクール
連携協議会事務局
上野 けい子さん

氷川町
コミュニティ・スクール
連携協議会　会長
四宮 和明さん

ICT活用授業

時代の最先端をいく教育をいち早く実施

ICTはInformation and Communication Technologyの略で、日本語にすると情報通信技術。氷川町内のすべての小中学校では、熊本県の教育委員会から『未来の学校』創造プロジェクト事業の指定を受け、ICTを活用した教育に取り組んでいます。電子黒板、タブレット、PCなどのICT機器を導入し、支援要員を配置。聞いて覚える暗記再生型から対話型へと授業のスタイルの転換が図られています。ICTを活用した授業を取り入れたことで、子どもたちはより積極的かつ自主的に授業に参加するようになったと、現場の先生たちは声を揃えます。この取り組みは、学習意欲、思考力、判断力等の向上に確実に良い影響を及ぼしており、また、自分の考えをしっかり表現したり、お互いの考えを共有して比較検討できる力が、氷川町の子どもたちの中で育っています。「ICTは活用次第で、教育の幅がとても広がると思います」と宮原小学校の坂本先生が話してくれました。

ICTは活用次第で
教育の幅が
とても広がると
思います。

宮原小学校　教諭
坂本 稔さん

人材育成 友好町交流

北海道大空町と提携

友好町との交流

氷川町は、北海道の大空町と平成14年に友好町提携を結び、それ以来、活発な交流を続けています。『ふれ愛スタディ事業』は両町の中学生が互いの町を訪れてホームスティ、氷川町とは全く環境が異なる北海道での貴重な体験が出来る機会として人気の事業となっています。

※ 大空町

人口7,406人（平成28年12月31日現在）、総面積約344㎢（氷川町の約10倍）で、オホーツクの空の玄関『女満別空港』を擁し、網走湖、藻琴山、メルヘンの丘、東藻琴芝桜公園などに代表される四季の自然が豊かな町です。基幹産業は農業で、麦類、じゃがいも、甜菜（砂糖の原料）、豆類、野菜のほか、日本最東端の米など多岐にわたって栽培されています。

八火 図書館

昭和48年に株式会社電通より寄贈され、平成27年に老朽化のため移転・新築されました。豊富な蔵書を誇る図書室は、採光屋根で明るい光が差し込みます。子どもたちのための学習スペースや、交流の場として活用できる畳の間なども設けられています。また、この図書館を贈られるきっかけとなった、氷川町出身の株式会社電通創始者、光永星郎氏の資料展示や記録映像の放映なども行われています。

昔、氷川町には『火の君』という豪族が住んでいたといわれています。
全盛期には佐賀県・長崎県（肥前国）まで支配が及びました。
その『火の君』の墳墓と考えられているのが、野津古墳群や大野窟古墳です。

野津古墳群（のづこふんぐん） 6世紀初頭～中頃 国指定史跡

姫ノ城古墳・中ノ城古墳・物見櫓古墳・端ノ城古墳の前方後円墳4基からなる古墳群です。長さ60～100mもあり、この時期の大きな古墳が密集して存在するのはとても珍しいことです。

大野窟古墳（おおののいわやこふん）

6世紀後半 国指定史跡

長さが約123mの前方後円墳で、これは、県内で最も大きな古墳です。横穴式石室を持っており、その高さ6.5mは全国でも有数の高さを誇っています。

大王山古墳 第3号（だいおうざんこふん） 県指定史跡

古墳時代の前期（4世紀～5世紀）の様式と思われる古墳です。直径30mの円墳で、竪穴式石室に舟形石棺が納められ、石棺と板石積の間から直刀一振が出土しました。

早尾のスッキョン行事 無形文化財

早尾地区に今なお伝承されている、大きな男性性器の模型が使われる成人式の奇習です。かなり珍しい儀式で、昭和56年文化庁により、『国選択無形民俗文化財』に選定されました。現在では、地区の消防団への入団の際の儀式として行われています。

内田康哉（うちだやすや）

1865年（慶応元年）、北鹿野に生まれ、若干12歳にして同志社（現：同志社大学）に入学。1887年（明治20年）に東京帝国大学政治学科を卒業した後は外務省に入省し、外交官として世界各地から第一流と名声をうたわれました。第2次西園寺公望内閣で外務大臣に就任して以来、5度の外務大臣を務めましたが、満州国を承認し国際連盟脱退の道を歩み『焦土外交』の名を残しています。

光永星郎（みつながほしお）

1866年（慶応2年）、西野津に生まれ、旧宮原町の寺子屋や旧小川町の大槻英輿の元で学んだ後、軍人を志すものの足が不自由になり挫折。その後、日清戦争では従軍記者として戦地に赴任。その経験から、日本を代表する広告会社『電通』の前身となる『日本広告株式会社』と『電報通信社』を設立。『健根信』を終身の信条とし、広告業と通信業の近代化に尽力しました。他方、1933年（昭和8年）には貴族院議員に勅選され、多方面で活躍しました。

上田碩三（うえだせきぞう）

1886年（明治19年）、宮原栄久に生まれ、明治42年『電通』入社、通信部長として、パリ講和会議、ワシントン軍縮会議など国際報道に活躍。昭和11年同盟通信社の発足に伴い常務理事、編集局長を務めました。戦後電通社長となりましたが、昭和24年UP通信社副社長マイルス・ボーン氏と東京湾で遭難死。優れた国際ジャーナリストに贈られる『ボーン・上田賞』は、二人の功績を讃えて設けられました。

秋山幸二ギャラリー

氷川町出身で、西武ライオンズ、福岡ダイエーホークスで活躍し、福岡ソフトバンクホークスでも監督としてチームを日本一に導いた秋山幸二氏。同氏のこれまでの偉業を顕彰するためギャラリーを開設し、2000本安打達成のバットやゴールデングラブなど、貴重な品が多数展示されています。クイズコーナーや映像コーナーなどもあります。

ごあいさつ

氷川町は、平成17年10月1日に竜北町と宮原町が合併して誕生しました。旧２町の中央部を流れる『氷川』が町の由来です。本町は、立神峡や竜北公園、道の駅「竜北」などの観光資源を有し、火の国発祥の地といわれる幾多の歴史・文化があり、いちご・梨、イ草などの農業が盛んな自然豊かなところです。

合併して12年目を迎え、これからも小さな町の利点を生かし、住民と行政がそれぞれの役割を果たし、協働して安心して暮らせ、幸せを実感できる氷川町を創造してまいります。また、先人先輩たちがこれまで築き上げられてきた有形・無形の地域の宝を継承し、さらに発展していくことが私たちのこれからの使命であり、次世代に対する責務であると考えます。

このパンフレットは、『氷川町の教科書』と題して、町民の皆さんを『先生』として各分野について紹介していただいています。このパンフレットをより多くの皆様にご利用いただき、本町への理解と関心を深めていただくとともに、より一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

氷川町長　藤本　一臣

町章

『ひ』を活かし、幸せと平和を呼ぶ青い鳥の飛翔するイメージをデザイン化。『ひ』の右側を３本にして『ひ』と『川』を一体化し、右肩上がりにすることで氷川町の町勢や町民の向上発展を表現しています。

氷川町キャラクター『ひかりん』

氷川町の『ひ』をモチーフに町花である『桜』を配し、情熱的な赤で擬人化。将来に向けて、更なる発展・繁栄する明るい元気な姿を力強くアピールしています。

町花　桜

氷川町には、各所に桜の名所があり、町民に愛され親しまれてきました。春になると里山から平野部の一帯がピンク色に染まり、人々の心を楽しませてくれます。その美しく華やかな姿は、町の明るく豊かな未来を象徴しています。

町木　梨

氷川町には、熊本県の『梨の発祥地』で、100年以上の歴史があり、天皇陛下に献上されたこともある特産品です。『吉野梨』のブランドは、全国的にも知名度が高く、町を象徴する木として親しまれています。

町鳥　つばめ

つばめは、古くから日本人に親しまれてきた鳥で、『つばめが営巣する家は栄える』と言われています。子育てに熱心で、つがいで行動し、渡り鳥として古巣に帰る姿は、家族や故郷を大切にし、さまざまな地域との交流による町の発展と飛躍を象徴しています。

氷川町の位置・地勢

氷川町は、熊本県のほぼ中央、熊本市から南へ約30キロメートル、八代地域の北部に位置し、北は宇城市、南は八代市に接しています。

町の中央部を東から西へ2級河川『氷川』が流れ、南北に走る国道3号を境に、東部に山林、丘陵地帯、西部には『西の八郎潟』として名を馳せる『不知火干拓』をはじめとした平坦地帯が広がる総面積33.3平方キロメートルの町です。

氷川町へのアクセス

阿蘇くまもと空港から

車で　　益城熊本空港ＩＣから宇城氷川スマートＩＣまで 30 分
バスで　すーぱーばんぺいゆ号で新八代駅まで 50 分 → 車で 20 分

博多駅から

新幹線で　九州新幹線で新八代駅まで 50 分（熊本駅経由で記載）→ 車で 20 分

鹿児島中央駅から

新幹線で　九州新幹線で新八代駅まで 50 分 → 車で 20 分